

発行：医療法人社団 神鋼会 神鋼病院
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1丁目4-47 電話：078-261-6711(代表) FAX：078-261-6726
発行責任者：病院長 山本 正之 編集責任者：神鋼病院広報委員会 委員長 山神 和彦

糖尿病・代謝内科が新体制になりました

ご挨拶

先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より先生方からの患者さんのご紹介、ならびにご指導ご鞭撻、誠にありがとうございます。

神鋼病院糖尿病・代謝内科では、今年4月に長年勤めて参りました村田が退職、新たに竹田が参入し、新体制で診療にあたっております。外来枠を従来よりも拡大し、より多くの患者さんにより綿密で行き届いた診療・指導が行えるよう努力しております。

以下、新しい体制について御紹介させていただきます。

PROFILE



Akihiko Takeda

竹田 章彦 医長

神鋼病院 糖尿病代謝内科 医長
名古屋市立大学平成12年卒

【資格】

内科学会認定医、医学博士

【所属学会】

日本内科学会・日本糖尿病学会
日本腎臓学会・日本消化器病学会

外来について

□ 外来診療担当表

	月	火	水	木	金
午前	竹田	村田 (非常勤)	廣田 (非常勤)	木股	竹田
午後	木股	村田 (非常勤)	竹田		木股 竹田

□ 専門外来について

4月からの外来担当日は上記のようになっております。月午前、水午後が新設の外来枠です。

常勤医の外来がない時間帯でも、オンコール制を取り入れ、平日ならいつでも紹介患者さんを受け入れできる体制を作りました。

また昨年、新神戸にオープンしました新神戸ドック健診クリニックとも連携を取り、糖尿病患者・糖尿病予備軍の早期発見・早期介入にも努めていきたいと考えておりますので、そちらも併せてご利用ください。

□ 救急外来での対応について

糖尿病で先生方にかかりつけの患者さんが体調を崩し、当院の救急外来を受診されるケースがあると思います。その場合も、適宜オンコール制により救急担当医からコンサルトを受け、診療に担わせて頂きたいと思っております。

糖尿病救急(ケトアシドーシス、高浸透圧性脱水症、遷延性低血糖症、シックデイなど)の場合は、可能な限り入院して頂き、主治医として加療させて頂きたいと考えております。

□ 外来療養指導について

この度、院内で新たに「糖尿病ケアチーム」を結成しました。医師以外に、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、理学療法士などのコメディカルスタッフも参入して、当院に通院・入院中の糖尿病患者に対する療養指導のレベルアップ、糖尿病患者のQOL改善を図りたいと思っております。

また、このチームで定期的な糖尿病教室の開催、就労糖尿病患者に対する外来インスリン導入、フットケア(皮膚科・形成外科との連携のもと)、外来栄養指導・服薬指導も行っていきたいと考えております。

教育入院について

当院では従来より糖尿病教育入院を実施しております。入院中は糖尿病教育の他、合併症の精査を行うわけですが、糖尿病患者においては、いわゆる三大合併症（網膜症・腎症・神経症）以外に大血管合併症が多く、しかも重篤であることが特徴であると言えます。

当院では、熟練したエコー検査技師が大血管（頸動脈・下肢動脈・大動脈・腎動脈）の非侵襲的スクリーニングを行い、治療適応がある場合は、速やかに循環器内科・脳神経外科・血管外科・

放射線科と連携を取り、早期に介入・治療に移行できるよう配慮しています。

また、糖尿病患者の死因は、実は悪性腫瘍が一番多いということが知られています。そこで、普段集団検診やがん検診を受けておられない方には、教育入院中に悪性腫瘍のスクリーニングをお勧めしております。

前出の「糖尿病ケアチーム」による回診・カンファランスも予定しており、それぞれの糖尿病患者さんにとって、療養の上で何が問題で、退院後どのようにしていけば良いのかということを徹底的に議論したいと思っております。

さいごに

以上4月からの新体制について、未実施の項目についても書かせて頂きました。ご意見・ご感想お待ちしております。お気づきの点がございましたら、地域連携室までご連絡下さい。

地域の拠点病院として十分に役割を果たせるよう、ますます努めていきたいと考えておりますので、ご指導の程よろしく申し上げます。

薬剤室での取り組み

薬剤室 西嶋 千晴

当院では今年の4月から糖尿病代謝内科が新体制となり、糖尿病を抱えた患者の教育入院によりいっそう力をいれています。

インスリン療法を開始する際には、追加インスリンと基礎インスリンをどのように補うのか判断します。主に追加インスリンを補うには、R注やノボラピッド注、基礎インスリンを補うにはN注・ランタス注・レベミル注などを使用します。レベミル注・ランタス注はN注に比べ作用のピークが緩やかで、低血糖の発現頻度の減少が期待できます。

追加・基礎インスリンを共に補うには、従来は30R注や30ミックス注が主でしたが、50ミックス注や70ミックス注も新しく発売され、より選択肢が広がりました。検査結果をもとに、これらの製剤の特徴と患者の性格・ライフスタイル等を考慮し、個人ごとに治療方針を決めています。

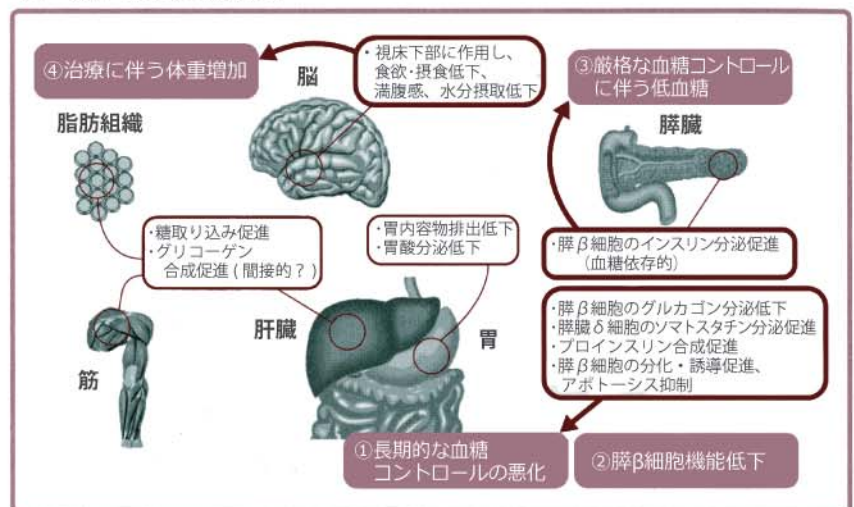
今後、インクレチンという新たな作用機序を持つ注射薬が発売予定です。インクレチンとは、食事摂取に伴い消化管から分泌され膵β細胞からのインス

リン分泌を促進する因子の総称で、GIPとGLP-1の2つのホルモンが確認されています。インクレチン分解酵素阻害剤の内服薬は、既に当院でも多くの患者に処方しています。今回発売の注射薬の特徴は、GLP-1受容体を介して血糖値が高い場合のみインスリン分泌作用を発揮するため低血糖の発現リスクが低いことです。さらに、図にもあるように糖尿病治療の課題である①から④を解決

する可能性もあるといわれています。新しい糖尿病治療におけるインクレチン関連薬のポジションを見極めて、最大の効果を得られる治療戦略の検討が今後の課題です。

薬剤師は「糖尿病ケアチーム」の中で、インスリンを導入する患者に対して効能・効果・副作用対策等を説明することで、高いコンプライアンスが得られるよう働きかけていこうと考えています。

図 GLP-1の多様な作用



[Drucker DJ et al : The incretin system : glucagons-like peptide-1 receptor agonists and dipeptidyl peptidase-4 inhibitors in type 2 diabetes.Lancet.368 : 1696-1705,2006 より引用、改変]

出張講演会の御案内

神鋼病院血液内科ではご依頼により出張講演会を行っています。

■ 講演内容

- I 末梢血の血液検査値異常をきたす血液疾患とその対処法について
- II 血液疾患に対する造血幹細胞移植について

■ 申込先

神鋼病院地域医療連携室 TEL: 078-261-6739(直通)

※なお、本院に於いて以下の科も出張講演が可能です。
乳腺科・呼吸器内科・呼吸器外科・泌尿器科

近年、造血器悪性腫瘍は増加傾向にあり、また日常診療において、鉄欠乏性貧血を始めとする各種貧血、白血球減少・増加、血小板減少・増加などに遭遇することは決してまれではありません。血液疾患が疑われるような血液検査値異常がみられたときの、鑑別すべき疾患、必要な検査、専門医への紹介のタイミング等、日常診療に必要なポイントについて講演させていただきたいと考えています。

また、造血器悪性腫瘍に対する治療法はめざましく進歩しており、治癒を目指す究極の治療として造血幹細胞移植があります。造血幹細胞移植の最新の知見、適応、方法など血液診療の最前線の話についても紹介させていただければと考えております。お気軽に声をおかけ下さい。

血液内科医長 赤坂 浩司

病診連携講演会のご案内

場 所：神鋼病院 3階 講堂（神戸市中央区脇浜町1丁目1-47）

連絡先：神鋼病院 管理部 地域医療連携室 TEL: 078-261-6739（直通）

■ 膠原病リウマチ疾患 - 早期診断のコツ

座長 神鋼病院 副院長 鈴木 雄二郎

神鋼病院膠原病リウマチセンター
センター長 熊谷 俊一

日時：2010年6月10日（木） 18:30～20:00

■ 救急室・病棟で必要な神経学的所見の診かた

座長 神鋼病院 副院長 鈴木 雄二郎

田附興風会医学研究所北野病院神経センター
センター長 松本 禎之 先生

日時：2010年6月23日（木） 18:30～19:45

■ 動脈硬化研究の歩み

座長 神鋼病院 膠原病リウマチセンター長 熊谷 俊一

神戸市立医療センター中央市民病院
院長 北 徹 先生

日時：2010年7月1日（木） 18:15～

■ 肺がんの胸部X線診断

国立がんセンター中央病院放射線診断部
医長 楠本 昌彦 先生

日時：2010年7月9日（金） 18:00～20:00

がん看護専門看護師（候補生）のご紹介



あんどう きみこ
安藤 公子

神戸市看護大学大学院
平成22年卒

* Message

がん看護専門看護師（現在は候補生）です。
がん医療を担うチームの一員として、診断期から終末期にある患者さんやご家族への身体的・精神的ケアを行います。いつでもご相談ください。宜しくお願いします。

■ 神鋼病院理念

地域医療に貢献し、
信頼される病院をつくります。

■ 基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した全人的医療を実践します。
3. 常に学・技の研鑽に励み、よりよい医療を提供します。